

高校生の家庭に関する意識調査

— 日本とイギリスの比較 —

林 孝 夫

〔抄録〕

大学院紀要第24号では、青年期にある高校生の学校に対する意識を探り、その結果をニュージーランドの高校生と比較する事により、高校生が心豊かな学校生活を送るためにはどうすればよいのかを検討した。本稿では、日本の高校生の家庭生活に対する意識を探り、日本の家庭における教育力の低下の事実の有無について検討するとともに、また高校生は家庭では家族とどのように関わりをもっているのかを理解し、彼らが少しでも夢のある青年期を送ることができる一助になればと考えこの意識調査を実施した。調査においては、「家では誰と一番よく話しますか」をはじめとした家庭における対話相手、対話内容、対話相手に対する意識、理想の父親像、母親像を尋ねる設問を用意し、はじめに日本の高校で意識調査を実施した。その後イギリスの高校生に対しても同様の調査を実施し、両国の高校生の家庭生活に対する意識についての共通点、相違点を見つけたそうとした。

キーワード：家庭生活、親子関係、家庭の教育力

はじめに

大学院紀要24号では友人関係や学業不振による不登校生徒が増加しつつある現状を踏まえ、青年期にある高校生の学校に対する意識を探り、その結果をニュージーランドの高校生の調査結果と比較することにより、日本の高校生がどういう青年期を過ごしているのか、どうすれば心豊かな夢のある学校生活を送ることができるのかを考察した。

中央教育審議会の最近の第一次答申で「家庭の教育力の低下」が指摘され、文部大臣も「お父さんをもっと家に帰して」と経済団体に要請するなど、文部省は最近、「家庭の教育力の充実」を強調している。本稿はこの事実を踏まえ、現代の高校生が家庭で、親、兄弟姉妹などの

うち、一体誰と主に対話しているのかまた、その人達に対して彼らはどのような意識を持っているのか、親に対してどのようなことを望んでいるのかを探ろうとした。そうしてこの調査結果をほぼ同年代のイギリスの高校生の意識調査と比較することにより両国の共通点、相違点を見つけたそうとした。さらに、日本の家庭の教育力が本当に低下しているのか、もし低下しているとすればどのように改善していけばよいのかを同時に探ろうとした。この考察が高校生が夢の持てる青年期を送る一助になればと考える。

1, 調査方法, 時期, 人数

本研究では、高校生の家庭生活に対する意識を探るために、質問紙による調査を無記名でおこなった。上記目的のために、家庭における対話相手、その内容、その対話相手についての意識、高校生の考える理想の母親像、父親像についての5項目を設定した。調査時期は、日本の高校生については、1993年10月から1994年5月にかけて、京都府下、滋賀県下、大阪府下のそれぞれの高校において実施した。アンケート総数は男子159人、女子111人、合計270人である。

一方、イギリスの高校生については、1996年1月に筆者がイギリス中西部バーミンガムの近くの都市ウルバーハンプトンを訪ねた際にTコンプリヘンシブスクールに通うイギリス人の知人の娘さんにアンケートの実施を依頼し、3月末に郵送で結果を受け取った。

アンケート総数は、男子42人、女子44人、合計86人である。

設問1(表1～4)に関しては、日本の高校においてそれぞれ項目に違いがあるが、これは最初A高校で父親、母親との対話の頻度を調べるための設問を用意し、さらにその半年後にB高で、調査を実施する際し、生徒にとってより回答しやすい設問にすると同時に彼らが家庭で父親、母親以外(兄弟、姉妹を除く)に誰を対話相手に選んでいるのかを調べようとしたものである。さらにC高で調査を実施する際に、選択枝の中にB高では省いた兄弟、姉妹をも加え、家庭における対話相手を見ようとしたものである。それ以外の設問に関しては、3校とも同じである。また、イギリスの高校で実施した設問はC校で実施したものと全く同じものである。

2, 調査結果の考察

a, 対話相手について

設問1「あなたはお父さん、お母さんと話しますか」(A高)の結果は表1に示す。

「あなたは家族・親戚の中で、兄弟・姉妹を除いて誰と一番よく話しをしますか」(B高)の結果は表2に示す。

「家で誰と一番よく話しをしますか(父、母、祖父、祖母、おじ、おば、姉(妹)、兄弟)」(C高、イギリス)の結果は表3に示す。

表1 A高「あなたはお父さんとよく話しますか」 男子71人, 女子59人
「あなたはお母さんとよく話しますか」

	父	母
男子	37(52.1%)	34(47.9%)
女子	32(54.2%)	52(88.1%)

数字は「はい」と回答した人数を表している

表2 B高「あなたは家族, 親戚の中で, 兄弟・姉妹を除いて誰と一番よく話をしますか」
男子39人, 女子9人

	父	母	祖父	祖母	おじ	おば	兄弟	姉妹
男子	22(56.4%)	13(33.3%)				1(2.6%)		
女子	2(22.2%)	7(77.8%)						

表3 「家であなたは誰と最もよく話しますか (父, 母, 祖父, 祖母, おじ, おば, 姉 (妹), 兄 (弟))」
C高 男子49人 女子43人

	父	母	祖父	祖母	おじ	おば	兄弟	姉妹
男子	4(12.3%)	13(26.5%)		2(4.1%)	1(2%)	1(2%)		2(4.1%)
女子	3(7%)	32(74.4%)			1(2.3%)	1(2.3%)	1(2.3%)	5(11.6%)

表4 イギリス 男子42人 女子44人

	父	母	祖父	祖母	おじ	おば	兄弟	姉妹
男子	13(31%)	6(14.3%)	3(7.1%)		5(11.9%)		13(31%)	2(4.8%)
女子	8(18.2%)	22(50%)				4(9.1%)	2(4.5%)	11(25%)

まず最初に日本のA高に着目して、「父親」「母親」との対話頻度を見ていくことにする。設問の「お父さんと話しますか」については、男子で「はい」が71人中37人(52.1パーセント)と過半数を上回っている。女子も59人中32人(54.2パーセント)とやはり過半数を上回っている。このことから男女共、父親との間でかなり親子の対話がおこなわれていることがわかる。一方また父親の方も子供と対話しようと努力していることがうかがわれる。しかし、この高校生の父親の年代は社会的にも責任を持つことが要求され、その分仕事量が増え、帰宅時間が遅くなったり、土曜日、日曜日は休養に当てたり、付き合いのゴルフ等で家を留守にしたりといったように父子の対話の時間を確保することが難しいのではないと思われる。このA高の調査を実施した前後の時期は、いわゆる企業戦士と呼ばれた父親が夜遅くまで残業するという風潮が見られた時期であり、子供との対話時間が少ないのも致し方ないのかもしれないが、現在では父親が家庭に目を向ける割合はさらに高くなっていると考えられ、父子の対話頻度はさらに高くなっているであろうと予想される。それでもまだ母親と比較すると対話頻度は低く、今後父子対話に向けて父親側の一層の努力が求められるであろう。「はじめ」にでも触れたが、家庭における教育力の復権は今後父親が母親と共に責任を分かち合い、どのように育児や家事に参加していくかにかかっているのではないだろうか。

次に「お母さんと話しますか」について見ていくと男子は「はい」が71人中34人(47.9パーセント)で、「いいえ」が36人(50.7パーセント)と僅差ではあるが「いいえ」が多くなっている。一方、女子は「はい」が59人中52人(88.1パーセント)と母親との間でかなり高い頻度で会話がなされていることがわかる。筆者は最初、女子の回答では「はい」がかなり多くなり、一方男子は対話頻度はもっと低くなるだろうと予測していたが、男子は「いいえ」が過半数に達したとはいえ、男女共比較的母子の対話はおこなわれているといえるのではないかと考える。しかし今後母親の社会進出が一層増加し、一方父親が家庭にいる時間が増加し、母親と家事を今まで以上に分担するようになるにつれて、この母子の対話頻度はどのように変化していくかが問題となろう。今までの「父親が働き、母親が家庭を守る」という伝統的なパターンが崩れ、現在のように「父親、母親が共に働く」さらには今後「父親が家庭を守り、母親が働く」という家庭が増加した場合に、今度は家庭にいて、子供と一番よく接する立場にいる父親が対話相手の第一位にくることもあるだろうし、またそれとは逆に父親が家事をし、母親が働いてもやはり、対話相手としては母親が一番に選ばれるということもあるだろう。この親子の交流には両親の父性、母性の問題もあるかもしれないと思われる。例えば、好きな人ができた時には、母親の方が話しやすいといったこともあるだろう。このA高の結果から男女共比較的親子の対話がおこなわれているといえる。親からの心理的な距離が遠のくという中期青年期(プロス1962)⁽¹⁾にいる彼らと親との間で対話がかなりおこなわれているということはまだまだ家庭における教育力の復権の可能性が残されているといえるだろう。

次に家族の中で誰を対話相手として選んでいるかを日・英両国で比較して見る。1の調査方

法の所でも述べたようにB高とC高では設問が若干異なっている。結果は日本の男子全体(B高を合わせた数)では父親と母親を選択した数が同数である。両校をさらに詳しく見ていくとB高では父親が、C高では母親を選択した数が多くなっている。一方イギリスの高校生男子では42人中13人(31パーセント)と父親が圧倒的に多くなっている。次にイギリスとC高を比較するとC高では二位に父親(12.3パーセント)が、一方イギリスでは兄(弟)(31パーセント)が父親と同数で一位になっている。女子についてはイギリスとC高を見てみると二位に父親を抜いて姉(妹)(日本11.6パーセント、イギリス25パーセント)が来ていることが興味深い。以上のことから考えて、日本では父親、母親がやはり家庭における子ども達の一番の対話相手になっていることがわかる。さらに青木多寿子⁽²⁾が指摘をしているように、イギリスにおける男子に関しては「父親が対話者として重要であり」、また両国とも女子に関しては「母親が対話者として重要である」ことがわかる。他の対話相手の選択で両国を比較した時に特徴として浮かび上がってくるのは、イギリスにおいて男子で「おじ」(11.9パーセント)を、女子では「おば」(9.1パーセント)を選択する割合が高かったことである。ところで日本のB高で父親が、C高で母親が選ばれた割合が高くなったのは、どうしてだろうか、今後詳しく調査してみたい。一方、日本でも女子に少し見られるが、イギリスで男女とも父親、母親以外に兄(弟)、姉(妹)との対話頻度が高くなっていることがわかる。これは女性の社会進出に伴い、親が共に働きに出て、姉や兄しか対話相手がいないことに原因があるとも考えられるがこれはやはり、年齢的にも近く、親と話すよりも身近で話しやすいということで選ばれたのであろうと考えられる。それとも日・英の養育の方法の違いによるものかどうか、今後詳しく調査する必要があるだろう。

b. 対話の内容について

設問2「その人とどんな話をしますか」の結果は表5～11に示す。

「どんな話をしますか」

表5 「父親」

イギリス 男子 42人	日本 男子 159人	イギリス 女子 44人	日本 女子 111人
サッカーなどのスポーツ 10(23.9%)	いろいろ 22(13.8%)	学校のこと 5(11.4%)	学校のこと 12(10.8%)
人生、人間関係など自分の 抱えている問題 5(11.9%)	人生や進路 9(5.7%)	サッカーなどのスポーツ 3(6.8%)	進路 7(6.3%)
学校のこと 3(7.1%)	学校のこと 6(3.8%)	仕事 1(2.3%)	いろいろ 6(5.4%)
コンピューター 2(4.8%)	野球などのスポーツ 5(3.1%)	悩み 1(2.3%)	世間話 4(3.6%)
お金 1(2.4%)	政治 1(0.6%)	興味を持っていること 1(2.3%)	その日の出来事 3(2.7%)
テレビ 1(2.4%)	釣り 1(0.6%)	母のこと 1(2.3%)	テレビ 3(2.7%)
女の子 1(2.4%)	仕事 1(0.6%)	お金 1(2.3%)	政治 3(2.7%)
	その日の出来事 1(0.6%)	何でも 1(2.3%)	家のこと 2(1.8%)
	車 1(0.6%)		昔のこと 1(0.9%)
			感動したこと 1(0.9%)
			車 1(0.9%)
			ニュース 1(0.9%)
			秘密 1(0.9%)
			友人 1(0.9%)
			父の仕事 1(0.9%)

表6 「母親」

イギリス 男子 42人	日本 男子 159人	イギリス 女子 44人	日本 女子 111人
学校のこと 5(11.9%)	学校のこと 22(13.8%)	学校のこと 14(31.8%)	学校のこと 40(36 %)
いろいろ 1(2.4%)	いろいろ 20(12.6%)	友人(ボーイフレンド) 8(18.2%)	いろいろ 23(20.7%)
スポーツ 1(2.4%)	進路 11(7 %)	悩み 7(15.9%)	進路 14(12.6%)
テレビ 1(2.4%)	食事(お弁当) 6(3.8%)	宿題 2(4.5%)	身のまわりのこと 7(6.3%)
外出先等 1(2.4%)	家のこと 4(2.5%)	音楽 2(4.5%)	友人(ボーイフレンド) 5(4.5%)
	世間話 3(1.9%)	家や家族のこと 2(4.5%)	世間話 4(3.6%)
	政治 2(1.3%)	秘密 2(4.5%)	料理 4(3.6%)
	友人 2(1.3%)	お化粧や服装など興味を もっていること 2(4.5%)	クラブ活動 2(1.8%)
	野球 1(0.6%)	人生 1(2.3%)	いろいろな場面で感じた こと 2(1.8%)
	勉強 1(0.6%)	お金 1(2.3%)	遊び 2(1.8%)
	口げんか 1(0.6%)	世間話 1(2.3%)	姉のこと 2(1.8%)
	父と同じこと 1(0.6%)		昔のこと 1(0.9%)
	女性からの視点について 1(0.6%)		楽しいこと 1(0.9%)
	お金 1(0.6%)		髪の話 1(0.9%)
	誰からの電話だったとか 1(0.6%)		最近のニュース 1(0.9%)
	遊び 1(0.6%)		家のこと 1(0.9%)
	お金 1(0.6%)		犬のこと 1(0.9%)
	無理に話してくるから対 応しているだけ 1(0.6%)		悩み 1(0.9%)
	年代の考え方のギャップ について 1(0.6%)		母の仕事について 1(0.9%)
	昔の苦労話 1(0.6%)		

表7 「兄(弟)」

イギリス 男子 42人	日本 男子	イギリス 女子	日本 女子
女の子 6(14.3%) スポーツ 6(14.3%) 学校のこと 5(11.9%) 音楽 4(9.5%) 父と母について 2(4.8%) 仕事や人生 2(4.8%) 釣り 2(4.8%) お金 1(2.4%) 友人 1(2.4%) テレビ 1(2.4%)	回答なし	回答なし	回答なし

表8 「姉(妹)」

イギリス 男子	日本 男子	イギリス 女子 44人	日本 女子 43人
回答なし	回答なし	男の子(友人) 9(20.5%) 悩み(人生) 4(9.1%) 学校のこと 3(6.9%) 音楽 3(6.9%) 夢 1(2.3%) お金 1(2.3%) 世間話 1(2.3%) 何でも 1(2.3%)	友人や学校のこと 4(9.3%) 将来のこと 1(2.3%) クラブ活動 1(2.3%)

表9 「おじ」

イギリス 男子 42人	日本 男子	イギリス 女子	日本 女子
いろいろ 2(4.8%) サッカーなどのスポーツ 2(4.8%) 学校のこと 1(2.4%) 音楽 1(2.4%) コンピューターゲーム 1(2.4%) 釣りやキャンプ 1(2.4%)	回答なし	回答なし	回答なし

表10 「おば」

イギリス 男子	日本 男子 88人	イギリス 女子 44人	日本 女子
回答なし	テレビの話 1(1.1%)	学校のこと 2(4.5%) 何でも 2(4.5%) 家のこと 1(2.3%) お金 1(2.3%) 成長について 1(2.3%)	回答なし

表11 「祖母」

イギリス 男子	日本 男子 88人	イギリス 女子	日本 女子
回答なし	人生 1(1.1%) おもしろい話 1(1.1%)	回答なし	回答なし

次にそれぞれの対話相手と対話する内容について見ていくとイギリスでは男子は父親と①「サッカーなどのスポーツ」(23.9パーセント) ②「人生などの悩み」(11.9パーセント) ③「学校のこと」(7.1パーセント)、一方日本では①「いろいろ」(13.8パーセント) ②「進路」(5.7パーセント) ③「学校のこと」(3.8パーセント) ④「野球などのスポーツ」(3.1パーセント) について話していることがわかる。両国ともよく話をしているが、その中でもイギリスでは「スポーツ」が、一方日本では「いろいろなこと」が一位になっており、特に父親とは重要な問題だけを相談するといったことではなく、日常的に日本では「いろいろ」なことを、イギリスでは「スポーツ」を中心にかなりの父子対話がおこなわれていることがうかがえる。食卓を囲み、または、テレビの前でスポーツなどについて会話をしている父子像が浮かんできはほえましくなる。さらには「学校」や「進路」についてもよく会話がおこなわれていることがわかる。ここで見られたスポーツについて日本では「野球」が多いのに対し、イギリスでは「サッカー」が多いというのは興味深い点である。日本でも、すでにプロのＪリーグが発足し、サッカー人気が高まってきているが、現在の小学生が高校生になる頃にはサッカーが父親と話すスポーツの一位になっているのだろうか、それともまだ野球が一位の座を占めているのだろうか。女子も同様に父親とイギリスでは①「学校のこと」(11.4パーセント) ②「サッカーなどのスポーツ」(6.8パーセント) ③「仕事」(2.3パーセント) ④「悩み」(2.3パーセント) など、一方日本では①「学校のこと」(10.8パーセント) ②「進路」(6.3パーセント) ③「いろいろ」(5.4パーセント) ④「世間話」(3.6パーセント) ⑤「その日のできごと」(2.7パーセント) ⑥「テレビ」(2.7パーセント) ⑦「政治」(2.7パーセント) という順になっており、父親との間でかなり会話がおこなわれていることがわかる。また、青木も指摘しているように男子同様に父親との間で「進路」等の重要な問題についても真剣に話し合われていることがわかる。ここからは両国において進路や家庭のことは母親まかせといった姿は見えず、父親の積極的な姿が浮かんでくる。

次に母親との対話内容について見ていくと男子でイギリスでは「学校のこと」(11.9パーセント) が最も多く、次いで「いろいろ」(2.4パーセント) 「スポーツ」(2.4パーセント) 「テレビ」(2.4パーセント) などがきている。日本では①「学校のこと」(13.8パーセント) ②「いろいろ」(12.6パーセント) ③「進路」(7パーセント) ④「食事」(3.8パーセント) ⑤「家のこと」(2.5パーセント) ⑥「世間話」(1.9パーセント) などの順になっている。女子ではイギリスで①「学校のこと」(31.8パーセント) ②「友人(ボーイフレンド)」(18.2パーセント)

③「悩み」(15.9パーセント) ④「宿題」(4.5パーセント) ④「音楽」(4.5パーセント) ④「家や家族」(4.5パーセント) ④「秘密」(4.5パーセント)などの順となり、日本では①「学校のこと」(36パーセント) ②「いろいろ」(20.7パーセント) ③「進路」(12.6パーセント) ④「身の回りのこと」(6.3パーセント) ⑤「友人」(4.5パーセント) ⑥「世間話」(3.6パーセント) ⑥「料理」(3.6パーセント)といったように、青木も指摘しているように父親同様に「進路」「学校のこと」「悩み(人生)」といった重要な問題を話し合っているのはもちろんのことであるが、「化粧・服装」「料理」といったかなり日常的な事柄について母親と対話がおこなわれていることがわかる。

さらにイギリスでは男子で兄(弟)と①「女の子」(14.3パーセント) ②「学校のこと」(11.9パーセント) ③「音楽」(9.5パーセント) ④「父と母について」(4.8パーセント) ④「仕事や人生」(4.8パーセント)「釣り」(4.8パーセント)、女子では姉(妹)と①「男の子(友人)」(20.5パーセント) ②「悩み(人生)」(9.1パーセント) ③「学校のこと」(6.9パーセント) ③「音楽」(6.9パーセント) ④「夢」(2.3パーセント) ④「お金」(2.3パーセント) ④「世間話」(2.3パーセント)、また日本の女子でも姉(妹)と①「友人や学校のこと」(9.3パーセント) ②「将来のこと」(2.3パーセント) ②「クラブ活動」(2.3パーセント)について対話がおこなわれていることがわかる。イギリスの女子では母親と同じ程度にさまざまな悩みや人生に関する相談が姉(妹)との間でおこなわれていることがわかる。これらの結果から設問1でも述べたように親が共に働きに出て、兄弟姉妹しか対話相手がいないことも考えられるが、これはやはり年齢的にも近く、親と話をするよりも身近で話しやすいということで選ばれたのであろう。話の内容も親に代わって相談するということもあろうが、むしろ親には言えないことを相談しているといえるのではないだろうか。兄弟姉妹に話すことで心の中を整理しているのではないだろうか。いわば、兄弟姉妹がカウンセラーの代わりをしているといってもよいのかもしれない。少子化が進む現在相談したり、けんかしたりする兄弟姉妹が少ないということが今後の子どもの成長にどのような影響を及ぼすのか、今後調査する必要がある。

次に設問1(表1～4)でも触れたが、イギリスでは日本と比べ、男子でおじを、女子でおばを対話相手として選択する割合が高かったが、その内容としては男子ではおじと「いろいろ」(4.8パーセント)「サッカーなどのスポーツ」(4.8パーセント)「学校のこと」(2.4パーセント)「音楽」(2.4パーセント)「コンピューターゲーム」(2.4パーセント)といったようないろいろなことを話している。一方女子も同様に「学校のこと」(4.5パーセント)「何でも」(4.5パーセント)「家のこと」(2.3パーセント)「お金」(2.3パーセント)といったさまざまな事柄について対話していることがわかる。父と母との対話内容にあまり差がないことから、男子にとっておじが、女子にとってはおばがそれぞれ父親、母親が不在の時にその代わりをしているものと考えられる。ただし父、母と比べて進路の話は出てこないで、進路等人生の重要な問題については父親、母親と話しているものと考えられる。

c. 対話相手の印象について

設問3「その人についてどう思いますか」の結果は表12～17に示している。

「その人についてどう思いますか」

表12 「父親」

イギリス 男子 42人	日本 男子 159人	イギリス 女子 44人	日本 女子 111人
偉大だ(尊敬している) 5(11.9%)	普通の父 11(6.9%)	好きだ 4(9.1%)	頼りになる 7(6.3%)
友人のようだ 4(9.5%)	尊敬している 8(5 %)	うまくいっている 2(4.5%)	よく働いている 5(4.5%)
うまくいっている 2(4.8%)	がんばっている 3(1.9%)	厳しい時もあるがやさしい 2(4.5%)	尊敬している 3(2.7%)
いつも側にいてくれる 2(4.8%)	何とも思わない 3(1.9%)	友人のようだ 1(2.3%)	お父さんという感じ 3(2.7%)
僕が好きなものを知っている 2(4.8%)	よいと思う 3(1.9%)	おもしろい 1(2.3%)	嫌な面があるので直してほしい 3(2.7%)
	苦労している 2(1.3%)	太っている 1(2.3%)	何とも思わない 3(2.7%)
	嫌いだ 2(1.3%)		好き 3(2.7%)
	短気, わがまま 2(1.3%)		明るく楽しい 2(1.8%)
	うるさい 1(0.6%)		やさしい 2(1.8%)
	一番信頼できる 1(0.6%)		黙って見ていてくれる 2(1.8%)
	昔は尊敬していたけど今は何とも思わない 1(0.6%)		短気 2(1.8%)
	いい人だが, 怒り方が厳しい 1(0.6%)		いろいろ答えてほしいけど答えてほしい時には茶化される 1(0.9%)
	いつも心配してくれている 1(0.6%)		過保護 1(0.9%)
	堅い 1(0.6%)		パワフル 1(0.9%)
	何でもやってくれる 1(0.6%)		兄弟のような感じ 1(0.9%)
	仕事のみをしている 1(0.6%)		嫌な時もあるし, いいときもある 1(0.9%)
	もう少し僕の意見を聞いてほしい 1(0.6%)		あまのじゃく 1(0.9%)
	いろいろ知っている 1(0.6%)		普段はやさしいけど怒れば怖い 1(0.9%)
	あまい 1(0.6%)		好きでない 1(0.9%)
	おじさん 1(0.6%)		いい加減である 1(0.9%)
			恋人とすれば一番いやなタイプ 1(0.9%)
			嫌いな時は嫌い 1(0.9%)
			自分勝手 1(0.9%)
			進学するときに参考になった 1(0.9%)
			大変だなと思う 1(0.9%)
			仕事のみをしている 1(0.9%)
			お父さんは私に負かされている 1(0.9%)

表13 「母親」

イギリス 男子 42人	日本 男子 159人	イギリス 女子 44人	日本 女子 111人
心配してくれ、守ってく れて、何でもしてくれる 1(2.4%)	普通の母親 13(8.2%)	うまくいっている 6(13.6%)	おこりっぽいけどやさし くて私をわかってくれる 16(14.4%)
とても愛している 1(2.4%)	よく怒る 8(5%)	話しやすい 4(9.1%)	尊敬しているし、頼りに なる 8(7.2%)
話しやすいし、よい聞き 手 1(2.4%)	何とも思わない 8(5%)	愛している 3(6.8%)	すばらしい(偉い) 6(5.4%)
	尊敬している 8(5%)	すばらしい 3(6.8%)	がんばり屋 5(4.5%)
	いい人 4(2.5%)	姉妹友人のようだ 2(4.5%)	おもしろい 3(2.7%)
	親孝行したい人 1(0.6%)	やさしい 2(4.5%)	うるさい 3(2.7%)
	おもしろい人 1(0.6%)	(私を)理解してくれる 2(4.5%)	うそつきでわがまま 2(1.8%)
	美しくない 1(0.6%)	私と似ている 2(4.5%)	ちょっと子供みtainな所 があってかわいい 2(1.8%)
	頭がまわる 1(0.6%)	宿題に関しては厳しい 2(4.5%)	親 2(1.8%)
	タフ 1(0.6%)	私のしたいことをさせて くれる 2(4.5%)	好き 2(1.8%)
	すばらしいが喜怒哀楽が 激しい 1(0.6%)	言い争いをする 2(4.5%)	よきアドバイザー 2(1.8%)
	信頼できない 1(0.6%)	かわいい 1(2.3%)	何とも思わない 2(1.8%)
	よいと思う 1(0.6%)	模範となる人 1(2.3%)	なくてはならない存在 2(1.8%)
	わがまま 1(0.6%)		気楽な人 1(0.6%)
	頼りになる 1(0.6%)		賢い 1(0.6%)
	てきぱきしている 1(0.6%)		めんどくさがり 1(0.6%)
	物事を決めつけてしまう 1(0.6%)		自分が一番偉いと思っ ている 1(0.6%)
	父の意見にいつも賛成 1(0.6%)		明るい 1(0.6%)
			お父さんには刃向かえな い人 1(0.6%)
			人を甘やかす人 1(0.6%)
			臆病だけどやさしい心 を持っている 1(0.6%)
			精神的には強い人だし、 すごい 1(0.6%)
			世間の目を気にし過ぎる 1(0.6%)
			心配症 1(0.6%)
			相談相手であり、私を産 んでくれた人 1(0.6%)
			姑の間が大変だと思う 1(0.6%)
			ばかなことばかり言っ ている 1(0.6%)
			時々急にむきになる 1(0.6%)
			すこしきつい、私のこと をわかってくれる時と全 然わかってくれない時が ある 1(0.6%)
			かわいそう 1(0.6%)

			何でも話せる雰囲気がある しい 1(0.6%) 嫌なときもあるし、いい ときもある 1(0.6%) 明るいけど怒ると怖い 1(0.6%) わがままだけどかわいい と思う 1(0.6%) 忙しい人生を歩んでいる 1(0.6%) 見習いたい部分がある が、合わない部分もある 1(0.6%) 結構あっさりしている 1(0.6%) 何でも話せる姉のよう 1(0.6%) 大きい存在でお母さんの ようになりたい 1(0.6%) すごいと思う 1(0.6%)
--	--	--	--

表14 「姉(妹)」

イギリス 男子	日本 男子 49人	イギリス 女子 44人	日本 女子 43人
回答なし	賢い 1(2 %)	私を理解してくれる(励 ましてくれる)5(11.4%) 愛している 2(4.5%) 話しやすい 2(4.5%)	よくわかってくれる 1(2.3%) 信頼できる 1(2.3%)

表15 「兄(弟)」

イギリス 男子 42人	日本 男子	イギリス 女子	日本 女子 43人
けんかをするが、話しや すく、うまくいっている 8(19 %) とても面倒見がよい 1(2.4%) 冷静 1(2.4%)	回答なし	回答なし	最高の兄 1(2.3%)

表16 「おじ」

イギリス 男子 42人	日本 男子 88人	イギリス 女子	日本 女子
信頼できる(尊敬できる) 3(7.1%) 父のようだ 2(4.8%) やさしい 1(2.4%)	おもしろい 1(1.1%)	回答なし	回答なし

表17 「おば」

イギリス 男子	日本 男子 88人	イギリス 女子	日本 女子
回答なし	おもしろい人 1(1.1%)	回答なし	回答なし

ここでは設問1(表1～4)で選択した対話相手に対する思いを見ていく。設問の関係上、日本のA高に関しては、父親、母親についてどう思うのかを全員に尋ねている、その結果を合めての日本の考察となる。

まず父親に関して、男子でイギリスでは①「偉大だ(尊敬している)」(11.9パーセント)②「友人のようだ」(9.5パーセント)③「うまくいっている」(4.8パーセント)③「いつも側にいてくれる」(4.8パーセント)の順となっている。一方日本では①「普通の父」(6.9パーセント)②「尊敬している」(5パーセント)③「がんばっている」(1.9パーセント)③「何とも思わない」(1.9パーセント)③「よいと思う」(1.9パーセント)⑥「苦労している」(1.3パーセント)という意見が続く。イギリスではすべて肯定的な回答で占められ、ここでも安定した父子関係が築かれていることがわかる。ここではまるで父と子が友人であるかのような何でも話せる父子関係にあることがわかる。日本においても肯定的な回答が多く見られる。回答で多く見られた「普通の父」という意見も自分の父親をあるがままの父親として肯定的に受け入れているものと考えられる。このことから日本においても安定した父子関係が築かれているといえる。ただここで気になる点としては、否定的な回答が少し見られるのと「別に何とも思わない」といった投げやりとも受け取れる回答が見られることである。

次に女子に関してイギリスでは①「好きだ」(9.1パーセント)②「うまくいっている」(4.5パーセント)②「厳しい時もあるがやさしい」(4.5パーセント)③「友人のようだ」(2.3パーセント)等やはり肯定的な回答が多い。一方日本でも①「頼りになる」(6.3パーセント)②「よく働いている」(4.5パーセント)③「尊敬している」(2.3パーセント)等の肯定的な回答が多く、双方とも男子同様に父娘関係は安定しているといえる。その他日本では調査対象の数も多いこともあるが、「いやな面があるので直してほしい」(2.3パーセント)「短気」(1.8パーセント)等否定的な意見を含めて実にいろいろな回答が見られる。「恋人とすれば一番いやなタイプ」(0.9パーセント)、イギリスでも「太っている」(2.3パーセント)といった回答に見られるように男子とは違い『異性としての父親』を冷静に観察していることがわかる。ただここでも日本で「何とも思わない」という意見が見られたのが気にかかる点である。

ついで母親について見ていくと男子に関して日本では「普通のお母さん」(8.2パーセント)「尊敬している」(5パーセント)「いい人」(2.5パーセント)といった肯定的な回答も多く見られる反面、「よく怒る」(5パーセント)「何とも思わない」(5パーセント)といった否定的な回答も多く見られる。これは父親と比較した場合に母親の方が家庭にすることが多く、父親以上に子どもと接する時間が長くいろいろ小言を言ったり、世話を焼いたりすることが多くなるためだと考えられる。一方子どもの方は中期青年期(プロス1962)⁽³⁾に入り、親から心理的な距離を置くようになる。その子供たちから母親を見た場合に上記のような回答が出てくるのではないだろうか。とはいえ、母親に対して肯定的な回答が多く、イギリスでも「心配してくれ、守ってくれ、何でもしてくれる」(2.4パーセント)「とても愛している」(2.4パーセント)

という回答に見られるように日英両国とも男子は母親を肯定的に捉えていることがわかる。

一方女子は、イギリスでは「うまくいっている」(13.6パーセント)「話しやすい」(9.1パーセント)「愛している」(6.8パーセント)「すばらしい」(6.8パーセント)といった肯定的な回答が多く、「宿題に関しては厳しい」(4.5パーセント)「言い争いをする」(4.5パーセント)というのも否定的な意見とは言い難く、むしろ母親らしい心配りの結果だと考えることができ、安定した母娘関係にあることがわかる。宿題に関しては日英とも大差なく、母親が我が子の宿題を心配し、子供はそのことに反発するというほほえましい姿が浮かび上がってくる。宿題に関して抱えている問題は日英両国とも同じだということだろうか。日本でも「おこりっぽいけどやさしくて、私をわかってくれる」(14.4パーセント)「尊敬しているし、頼りになる」(7.2パーセント)「すばらしい」(5.4パーセント)「がんばり屋」(4.5パーセント)「よきアドバイザー」(1.8パーセント)といった回答に見られるように母親を肯定的に見ていることがわかる。ただここでも「何とも思わない」(1.8パーセント)という回答が見られたが、単に調査に回答するのが面倒でこのような回答をしたのであればよいのだが、親子関係が冷えきってこのような回答をしたのであれば気にかかる点であるが、その他の調査結果から見て、家庭ではかなり会話がおこなわれており、親子関係が冷えきっているとは考えられず、「親から心理的な距離を置く」(プロス1962)⁽⁴⁾という中期青年期の特徴的な傾向としてこのような回答が出てきたものと考えられる。

d. 父親、母親像について

設問4、「理想の父親、母親像」についての結果は表18～19に示している。

表18 「理想の父親像」

イギリス 男子 42人	日本 男子 159人	イギリス 女子 44人	日本 女子 59人
サッカーや釣りになどに連れて行ってくれる 13(31%)	やさしい 13(8.2%) 今のままでよい 8(5%) 自由にさせてくれる 7(4.4%)	私の父 11(25%) 私を理解してくれる(認めてくれる) 11(25%) お金をくれる 8(18.2%) 話しやすい人(おもしろい人) 5(11.4%) 私を外出させてくれる 4(9%) 私を愛してくれる 3(6.8%) 私を外に連れていってくれる 3(6.8%) 私の側にいてくれる 2(4.5%) 私を自由にさせてくれる 2(4.5%)	しかる時にはしかるが普段はやさしい 7(11.9%) 今のままでよい 5(8.5%) どしっと構えていて普段はうるさく言わないが、いざという時に言ってくれる 5(8.5%) 理解してくれる 4(6.8%) やさしくてかっこよくて、何でも話せる 2(3.4%) 渋くてダンディ 2(3.4%) やさしくてほめてくれる 2(3.4%) ほほえみにしゃべれる 2(3.4%) 頼れる人 2(3.4%) 尊敬できる人 1(1.7%)
僕の父 6(14.3%) やさしくおこらない 4(9.5%) お金をくれる(買ってくれる) 4(9.5%) 話しやすい 2(4.8%) 僕の側にいてくれる 2(4.8%) 給料が高くて、高級車を持っている 2(4.8%) 自分が正しいと思わない人 1(2.4%) 用事をいいつけない 1(2.4%)	理解してくれる 5(3.1%) 子供に厳しい 4(2.5%) しかる時にはしかり、ほめる時にはほめる 3(1.9%) 一緒に遊んでくれる 3(1.9%) 子供から尊敬される 3(1.9%) 楽しい人 3(1.9%) タバコを吸わない人 2(1.3%) 背が高い 2(1.3%)		

高校生の家庭に関する意識調査 (林)

冷静な人 1(2.4%)	しっかりしたい父 2(1.3%)	一日中テレビの前に座って居眠りしない人 1(2.3%)	昔っぽくない人 1(1.7%)
ベレ 1(2.4%)	皆のことを考えてくれる 2(1.3%)	母とうまくいっている 1(2.3%)	心が暖かい人 1(1.7%)
俳優 1(2.4%)	どこかへ連れて行ってくれる 2(1.3%)	短気でない人 1(2.3%)	ドラマの父親 1(1.7%)
誰もいない 1(2.4%)	落ちついてどしっと構えている 2(1.3%)	流行に敏感で社交性があり、私の邪魔をしない 1(2.3%)	一緒にいて恥ずかしくない人 1(1.7%)
	偉大な人 1(0.6%)	お化粧をして、パーティーに行かせてくれる 1(2.3%)	仕事でがんばっている人 1(1.7%)
	お金をくれる 1(0.6%)	私に食器の乾燥させない 1(2.3%)	力強くて賢い 1(1.7%)
	うるさく言わない 1(0.6%)	私の好きなテレビ番組を見せてくれる人 1(2.3%)	私のことを考えてくれる 1(1.7%)
	ハンサムな人 1(0.6%)	宿題を手伝ってくれる 1(2.3%)	仕事でがんばっている人 1(1.7%)
	心が広い人 1(0.6%)	好きかってしない人 1(2.3%)	
	賢い人 1(0.6%)		
	紳士 1(0.6%)		
	数学を教えてくれる人 1(0.6%)		
	真面目で誠実な人間 1(0.6%)		
	子供に自慢できる 1(0.6%)		
	スポーツができる 1(0.6%)		
	意志を貫き通す 1(0.6%)		
	父親らしいことをする 1(0.6%)		
	何でも相談に乗ってくれる 1(0.6%)		
	高倉 健 1(0.6%)		
	応援してくれる 1(0.6%)		

表19 「理想の母親像」

イギリス 男子 42人	日本 男子 71人	イギリス 女子 44人	日本 女子 111人
話しやすく、僕を理解してくれ、面倒を見てくれる 14(33.3%)	明るくてうるさくない 7(9.9%)	私の母 18(40.9%)	やさしくて何でも相談に乗ってくれる 31(27.9%)
子供扱いをせずに自由にさせてくれる 6(14.3%)	何でも言える 3(4.2%)	私の世話をしてくれる 6(13.6%)	今のままでよい 11(9.9%)
おこらないし、いばらない 5(11.9%)	今のままでよい 3(4.2%)	お金をくれる 6(13.6%)	美しい人 11(9.9%)
僕の母 4(9.5%)	大和撫子 2(2.8%)	話しやすい人 4(9.5%)	料理のうまい人 7(6.3%)
お金をくれる 4(9.5%)	何もせずに見届けてくれる 2(2.8%)	やさしくて、おもしろい 4(9.5%)	うるさくなくて、自由にさせてくれる 6(5.4%)
僕の側にいて、愛してくれる 2(4.8%)	尊敬できる人 1(1.4%)	私を理解してくれる(私の人生を歩ませてくれる) 4(9.5%)	友人のようで、でも頼れる母 5(4.5%)
スポーツが好きな人 2(4.8%)	料理がうまい 1(1.4%)	相談に乗ってくれ、助けてくれる 3(6.8%)	物わかりがよい(子供の心をわかってくれる) 3(2.7%)
音楽が好きな人 2(4.8%)	お金持ち 1(1.4%)	私を愛してくれる 3(6.8%)	自分の好みを押しつけない 2(1.8%)
服を買ってくれる 1(2.4%)	父とは違った考えを持ってほしい 1(1.4%)	服装のセンスがよい 3(6.8%)	子供の視点に立って会話ができる 2(1.8%)
となりのケリー 1(2.4%)	しっかりといて子供を甘やかさない 1(1.4%)	私の祖母 2(4.5%)	若い人 2(1.8%)
	家のためにがんばってくれてどんなことにも必死になって理解してくれる 1(1.4%)	私を外に連れて行ってくれる 2(4.5%)	
	夜なべして手袋を編んでくれる人 1(1.4%)	私を自由に外出させてくれる 2(4.5%)	

	他の人達とうまくいく 2(4.5%)	家事が上手な人 2(1.8%)
	やきもきしない人 2(4.5%)	暴力的にならない 1(0.9%)
	10代のような行動をやめる 2(4.5%)	うそをつかない 1(0.9%)
		やさしくて、おばさんら しくない 1(0.9%)
		子供のお手本 1(0.9%)
		よそのだんなさんとも話 せる人 1(0.9%)
		決してほったらかしにし ない 1(0.9%)
		いつも明るく姉みたいな母 1(0.9%)
		家庭を大切にし、活発な人 1(0.9%)
		まめな人 1(0.9%)
		家の中がすべてになって いるので、もう少し外の 世界に目を向ける 1(0.9%)
		子供のことはある程度 放っておく 1(0.9%)
		皆の気持ちをわかってあ げれるような母親 1(0.9%)
		気楽な人 1(0.9%)
		強い精神を持っている人 1(0.9%)
		家族と過ごすことを考え ている 1(0.9%)
		子供好き 1(0.9%)
		歌が上手 1(0.9%)
		笑顔を決やさない明るい人 1(0.9%)
		サザエさん 1(0.9%)
		力強い人 1(0.9%)

この設問に関して、日本のB高で調査を実施した時に、男子には「理想の父親像」を、女子には「理想の母親像」を限定して尋ねたために、調査総数に差が生じているが、日英両国で高校生が理想とする父親像、母親像はどのようなものかを探っていくことにする。まず、理想の父親像について見ていくことにする。男子に関しては、イギリスでは、「サッカーや釣りなどに連れて行ってくれる」(31パーセント)が第一位で、次いで「僕の父」(14.3パーセント)「やさしくておこらない」(9.5パーセント)「お金をくれる(買ってくれる)」(9.5パーセント)となっている。一方日本では「やさしい」(8.2パーセント)が第一位で、次いで「今のままでよい」(5パーセント)「自由にさせてくれる」(4.4パーセント)「理解してくれる」(3.1パーセント)「子供に厳しい」(2.3パーセント)「叱る時にははしかり、ほめる時にはほめる」(1.9パーセント)「一緒に遊んでくれる」(1.9パーセント)「子供から尊敬される」(1.9パーセン

ト)「楽しい人」(1.9パーセント)等調査人数が多い分、回答が多岐に渡っている。両国で共通しているのは「やさしい」父親像であろう、ただ違うのはイギリスでは「サッカーや釣りに連れて行ってくれる」ような自分に関わってくれる父親像を望んでいるのに対し、日本では「あれこれ文句を言わずに自分のことをよくわかってくれて、やりたいことをやらせてくれる」という父親像である。

次に見られる共通点としては「今の自分の父親」を理想の父親として評価している点である。これは今まで何度も述べてきているように父子関係がうまくいっている証であろうし、父親が努力をしている結果であろう。次に両国の相違点としては、イギリスで「お金をくれる(買ってくれる)」(9.5パーセント)「給料が高くて、高級車を持っている」(4.8パーセント)という回答であり、これは日本ではほとんど見られない。一方日本では、「やさしい」(8.2パーセント)父親を求めている反面、「子供に厳しい」(2.5パーセント)「叱る時には叱り、ほめる時にはほめる」(1.9パーセント)といった回答が見られる。これは逆に最近『やさしくなりすぎた』父親に対する反動の現れであろうか。一方女子でも両国とも「今の自分の父親」(イギリス25パーセント、日本8.5パーセント)を理想の父親として高く評価している、特にイギリスにおいて顕著である。その他イギリスでは「理解してくれる」(25パーセント)父親が二位にきて、男子同様に日本ではほとんど見られない「お金をくれる」(18.2パーセント)父親が三位となっている。また、日本では「おこる時にはおこるが普段はやさしい」(11.9パーセント)父親が一位にきている。このことから両国に共通する父親像として「やさしくて、(自分のことを)理解してくれる」ということになるだろう。それが、両国の一、二位で見られた「今の自分の父親」になるのであろう。ただ、両国とも男子と違い「流行に敏感で社交性がある」(2.3パーセント)(イギリス)や「かっこよい」(3.4パーセント)「渋くてダンディ」(3.4パーセント)(日本)といった回答に見られるように外見上の評価も必要になってくる。その上で前述の「やさしくて(自分のことを)理解してくれる」父親像が要求されている。『理想の父親像』プラス『理想の夫』像というべきであろうか。ともかく父親にとって〈娘の理想とする父親像〉に近づくことは至難の技といえる。しかし、この調査からは、両国とも父親はかなり〈娘が理想とする父親像〉に近いといえるだろう。

次に理想の母親像について見ていこうと思う。男子ではイギリスで「話しやすく、僕を理解してくれ面倒を見てくれる」(33.3パーセント)が一位で、次いで「子供扱いをせずに自由にさせてくれる」(14.3パーセント)「おこらないし、いばらない」(11.9パーセント)「僕の母」(9.5パーセント)と続いている。日本でも「明るくてうるさくない」(9.9パーセント)が一位に来て「何でも言える」(4.2パーセント)「今のままでよい」(4.2パーセント)となっている。このことから、両国とも理想の母親像として「やさしくて、うるさくなくて、何でも理解してくれて、しかも自由にさせてくれる」といういささか自分に都合のよい母親像が浮かび上がってくる。日本で見られた気になる回答としては「父とは違った考えを持ってほしい」

(1.3パーセント)で、これは設問3(表12~17)で見られた「父の意見にいつも賛成」という回答から導き出された『母親にも父親の意見の受け売りとは違う自分の意見をしっかりと持っていてほしい』という子どもの期待感の表れであろう。

次に女子に関してイギリスでは「私の母」(40.9パーセント)が一位で、次いで「私の世話をしてくれる」(13.6パーセント)「お金をくれる」(13.6パーセント)「話しやすい人」(9パーセント)「やさしくておもしろい」(9パーセント)「私を理解してくれる」(9パーセント)、一方日本では「やさしくて何でも相談に乗ってくれる」(27.9パーセント)「今のままでよい」(9.9パーセント)「美しい人」(9.9パーセント)「料理のうまい人」(6.3パーセント)「うるさくなくて自由にさせてくれる」(5.4パーセント)という順に続いている。やはり、ここでも両国において『今の自分の母親を理想の母親像』と考えている生徒が多数おり、「理想の父親像」で見られた回答と合わせ両国とも良好な家族関係が築かれていることがうかがわれる。特にイギリスの女子において自分の父親、母親を理想の父親、母親として高く評価していることがわかる。共通する理想の母親像としては「やさしくて、話しやすく、何でも相談に乗ってくれて、私の世話をしてくれる」ということになるのだろう。ここでも父親像同様に「服装のセンスがよい」(6.8パーセント)(イギリス)、「美しい人」(9.9パーセント)(日本)といった外見上の容姿を重視していることがわかる。

最後に何度か触れたが、イギリスにおける男女の回答でそれぞれ「お金をくれる」というのが見られた点であるが、日本ではこの回答は男子で1名見られたのみであった。また、父親、母親との対話内容の中にもこの「お金」が見られた。このような親子間における「お金」のやりとりが、なぜイギリスで多く見られるのだろうか、また、逆に日本では「お金」が筆者の調査に関する限り、ほとんど見られなかった。この日英の違いは単なる偶然なのだろうか、それともそこには何か深い意味が隠されているのだろうか、今後検討していきたい点である。

終わりに

今回は家庭生活及び家族に対する意識を中心に日本とイギリスの高校生について考察した。今回の調査では対話相手、対話内容、その人に対する意識、理想の父親像、母親像について、日本とイギリスを比較し、考察を進めていった。調査結果から対話相手としては、イギリスでは男子で父親が、女子では母親が一位で、一方日本でも男子では、父親、母親が同数で一位、女子は母親が一位というように両国とも父親、母親が対話相手として多く選ばれていた。このことから、子ども達も父親、母親を高く評価していることがこの調査で裏付けられた。また対話内容も進路や学校の相談といった重要なものが多く、家庭の教育力の低下が言われても親の役割は依然として高く、ここからもまだ家庭における教育力が残されていることが証明され

た。とはいえ、父親が対話相手に選ばれる割合は母親と比べるとまだまだ低く、今後仕事と家庭をうまくやりくりして、子供達との対話時間を確保するために一層の努力が必要とされるだろう。バブル経済が終わり、父親の帰宅時間が早くなった今こそ本当に父親の存在価値が問われるであろう。父親が家庭で子供達との対話に努力すればする程、家庭の教育力は高まっていくであろう。それは母親においても同様であろう。さらにはここで示された理想の父親像、母親像も『単なる理想に過ぎない』と一笑に付すのではなく、子供達の切実な願いと受けとめ少しでも理想に近づくように努力することが大切であろう。その努力がきっと子供達の心を動かすだろう。さらにこの調査から特筆すべきは、兄弟姉妹を対話相手に選んでいる生徒が多くいたことである。考察でも述べたが、年齢が近い分、親にも話せないことを話しているのだろうと思われる。これが少子化傾向で話す相手がいなくなると彼らは誰を相手に対話すればよいのだろうか。どういう影響がでるのだろうか心配な点である。この少子化の問題は、女性の社会進出に伴い、仕事と子育てが両立できる環境づくりをしない限り、解決は困難であろう。もちろん夫としての男性側の協力も不可欠であろう。そうして子供達の対話相手を今後も保証できるように努力したいものである。スウェーデンのように出産、育児の環境を整備することで出生率を高めることが求められる。

今回はイギリスと日本の二国間の比較を試みたが、今回はこれにニュージーランドを加えて三国間の比較をして、共通点・相違点、また彼らが抱えている問題を見つけだし、高校生が少しでも夢が持てる青年期にするためにはどうすればよいのかについて検討を進めていきたいと考える。

注

- (1) 長尾 博 『ケース青年心理学』有斐閣、1991年、p. 8
- (2) 青木多寿子「青年における身近な他者への役割期待の違いと性差」 日本心理学会編集委員会、『心理学研究』 第64巻、第2号、1993年、pp.140-146
- (3) 上掲 長尾 p. 8
- (4) 上掲 長尾 p. 8

(はやし たかお 大阪府立磯島高校) (1996年10月16日受理)

